令和7年度　真壁小学校　学校経営ビジョン

BANIとよばれる時代
- Brittle（脆弱性）
- Anxious（不安）
- Non-Linear（非線形性）
- Incomprehensible（不可解さ）

Education2030
○ウェルビーイング
○ラーニング・コンパス
- コンピテンシー
- エージェンシー
- AARサイクル　　等

令和の日本型教育
○個別最適な学び
- 指導の個別化
- 学習の個性化

○協働的な学び
- 他者の尊重
- 異なる考え方の組み合わせ
- 新たな考えの創造

※個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実（往還）
○Society5.0への対応

Society5.0
○インターネットなどの「サイバー空間」と、私たちが生活する現実世界である「フィジカル空間」を高度に融合して、経済発展と社会的課題の解決を両立する「人間中心の社会」

関連諸法令・文献等
- 学校教育法
- 学校教育法施行規則
- 学習指導要領
- いじめ防止対策基本法
- こども基本法
- 生徒指導提要
- 沖縄県教育振興基本計画
- 学力向上推進ﾌﾟﾗﾝ・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅡ
- 学校における指導の努力点
- 信頼される教職員を目指して
- 糸満市例規集第7類　　等

学校教育目標　「自立できる子を育てる」
○基礎的な知識・技能を身につけ、それらをつなげられること
○自分を知り、他者を知って共に歩むこと

ひとりでできるもん
瞳を輝かせ
友だちと関わりながら
リアルに学ぶ
出来ることを増やして
出来ないことを減らす
きっと出来ると自分を信じ
ルートを見つけて
問題を解決する

育てたい資質・能力&目指す日常
「ワハハ」と「アハ！」そして「ワクワク」
（笑い声）　（ひらめき）　（好奇心）

- お互いの個性・違いを認め合う　「ワ（和）」
- お互いに心を開いて考えを伝え合い受け止め合う　「ハ（披）」
- お互いの考えが新しい考えへと連鎖し合う　「ハ（破）」
- いろんな考えに刺激を受けて、一瞬のうちに"ひらめき"が生まれる　「アハ！」
- 学びを始める・継続するもとになる好奇心　「ワクワク」

※披（ハ）は常用漢字外の読み方

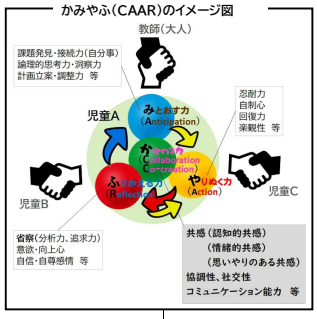
本校の特性
- 学年1クラス（6年間同じクラス）
- 学年内での固定的なリーダーシップ（友だちや自分に対する関心の低さ）
- 学年の枠を超えた縦割り班
- 地域との密接なつながり
- 将来の夢（見通し）を描けていない　　等

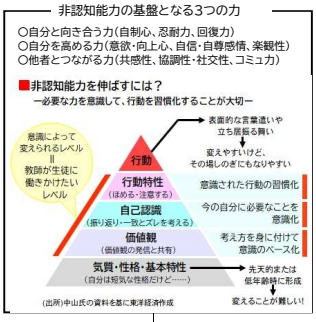
目指す児童像
お互いを認め合い、尊重し合う児童
自ら気づき、考え、行動する児童
心身を安らかに保ち、行動に責任を持つ児童

真壁小の「あたりまえ」
― みんなで"つくる" みんなで"広げる" ―
○いじめのない学校（R5.12.25版）
- "全員で"仲を深める ※児童会案の文言を一部修正
- 協力して問題を解決する

目指す教師像
学びの相似形で、児童と共に学ぶ教師
- 児童の将来の自立に向けて伴走する
- 伴走に必要な知識や技術を学び続ける

目指す学校像「よりよい自分をつくる学校」
学びを続ける児童と教師（学びの相似形）





"自分の学び" と "やりぬく力"
○「科学知」と「生活知」をつなぎ、生きて働く「知恵」に変える
- 科学知とは、科学的手法によって獲得される客観的な知、生活知とは、生活のなかに埋め込まれてきた経験的な知のこと
- 生活上の諸問題に対応するためには、それに適用可能な新たな知識の獲得と技術の習得が必要

○学びを続けるために必要な "GRIT"
- 何事にも諦めずに長時間忍耐強くやり抜くことが学び続けることの支えになる

学校経営の重点
○校務会と担任会を両輪とした学校運営
○校内研修と個の関心に応じたテーマ研修の一本化
○異学年交流や縦割り班、地域人材を生かしたウェルビーイングの推進
○児童・職員の健康・安全に配慮した教育課程の編成
○家庭や地域と連携した教育活動の推進

○教師一人一人の個人知の蓄積とそれらを束ねて学校知として共有する仕組みの構築と教育情報の利活用（ICT）、エビデンスに基づく活動の促進
○省察による取り組みの検証とECRS（イクルス）を活用した業務改善の推進

他者・他機関との協働
- 保護者
- 地域　各字自治会
　　老人会
　　子供会　等
- 学校運営協議会
- 外部講師
- 関係機関

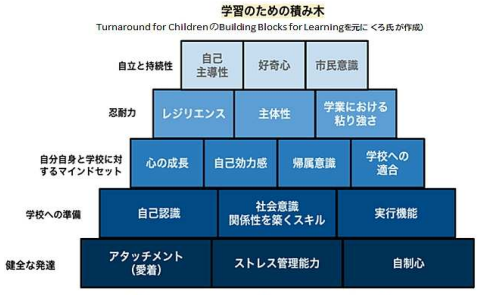
教育活動の重点（探究的な学習活動と協働、心身の健康・安全）
○非認知能力を高める（基盤となる3つの力を育む「心を動かす仕掛け」のある授業）
○主体的・対話的で深い学びをつくる（個別最適な学びと協働的な学び）
○異学年交流を通して"貢献"と"承認"のサイクルをつくる（自己有用感を育む）
○学校の枠を超えた学びをつくる（地域や社会とつながる）
○健康・安全に関心を持ち、健康な心と体をつくる（健全な心身を育む）

○自学自習力
- 学びのツールとしてのICT

○言葉を扱う力
- 思いを表現する
- 思いを受け取る

○スリンプル・プログラム（つながる力）

自分を知り、他者を知って、高め合う



出典：https://booksoccermarketer.com/hininnchinouryoku-ichirann